

Eco-LAB

～ バイオスティミュラント普及に向けた活動紹介 ～

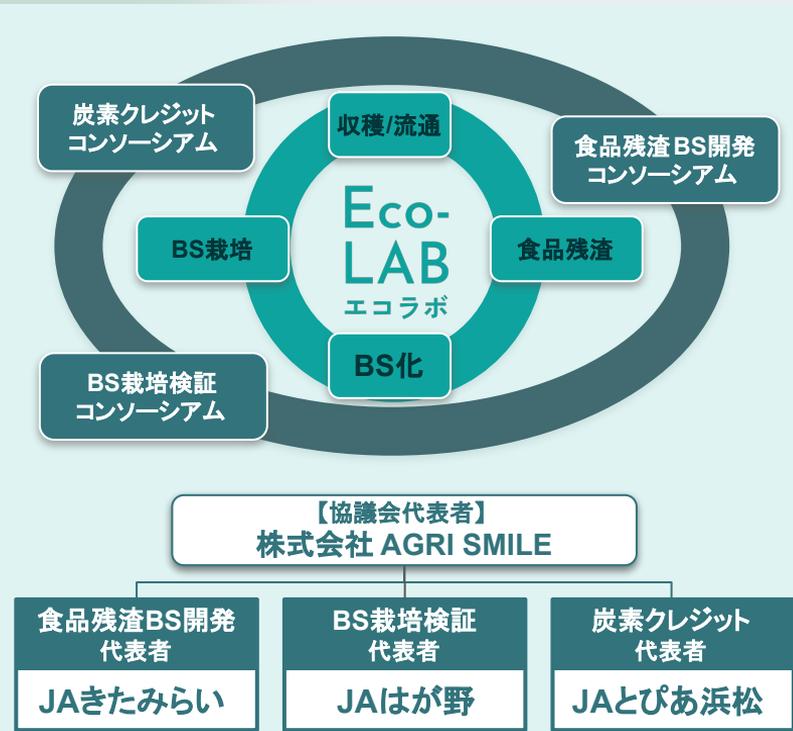
2026年3月4日

※無断転載転用禁止



Eco-LABとは 『産地を中心とする協議会』

- 2023年9月、バイオスティミュラントの推進活動を目的とする協議会「Eco-LAB」を設立。3コンソーシアムで構成し、産地課題の報告や公表、BS普及に向けた協議等を行っています。



※会員構成（一部）

農業協同組合

- 遠州中央農業協同組合 (代表理事 山田 耕司)
- きたみらい農業協同組合 (代表理事 大坪 広則)
- 甲賀農業協同組合 (代表理事 池村 正)
- とぴあ浜松農業協同組合 (常務理事 齊藤 直司)
- はが野農業協同組合 (代表理事 渡辺 栄)
- ミヶ日町農業協同組合 (代表理事 井口 義朗)
- フルーツ山梨農業協同組合 (代表理事 西島 隆)
- 更別村農業協同組合 (代表理事 若園 則明)
- みなみ信州農業協同組合 (代表理事 寺沢 寿男)
- 大湯村農業協同組合 (代表理事 小林 肇)
- 全国農業協同組合連合会岩手県本部 (県本部長 高橋 司)
- 全国農業協同組合連合会岐阜県本部 (県副本部長 伊藤 善紀)
- 道央農業協同組合 (代表理事 今村 隆徳)
- ひまわり農業協同組合 (代表理事 今泉 秀哉)

自治体

- 長野県飯田市 (飯田市長 佐藤 健)
- 埼玉県深谷市 (深谷市長 小島 進)

企業

- キュービー株式会社 (機能素材研究部長 白男川太一)
- 日本オーガニック株式会社 (常務取締役 水谷 和敬)
- 株式会社ウェイストボックス (代表取締役 鈴木修一郎)
- 株式会社パナソニック システムネットワークス (代表取締役社長 大橋 政宏)

金融機関

- tsumiki証券株式会社 (代表取締役CEO 青木 正久)
- 株式会社三菱UFJ銀行 (営業本部ケミカル・ウェルビーイング部長 鈴木進介)

<https://eco-lab.gr.jp/>

【参考】Eco-LAB由来



バイオスティミュラントのテクノロジーを活用して
気候変動対策と地球環境に配慮した
環境保全型農業を実現していく目的から、
環境（ecology）と経済（economy）を意味する

「Eco（エコ）」と、

テクノロジー研究（laboratories）を意味する

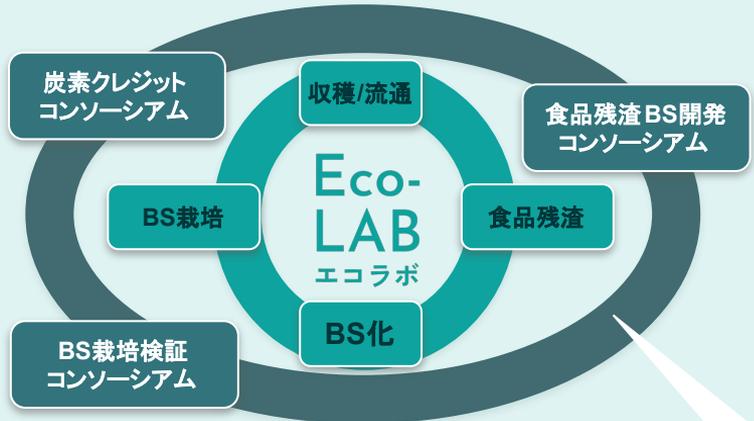
「LAB（ラボ）」

を掛けあわせた略語で、

英語名称「Expert COuncil for Leading-edge
Agriculture in Biostimulant technology」
の頭文字を組み合わせた造語です。

農林水産省ガイドラインとEco-LAB自主規格

- Eco-LABは、農林水産省ガイドライン（2025年5月策定）に準拠し、資材の評価などを補足した「資材が満たすべき基準」を策定し、自主規格として公開しました。



農林水産省ガイドライン

バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン

令和7年5月30日付け7消費第1353号消費・安全局長通知

1. 目的

近年「バイオスティミュラント」と呼ばれる資材が国内外で開発されている。このような資材は、気候変動等がもたらす高温や乾燥といった非生物学的ストレスを農作物が**2月19日案**前もって感知することで、同ストレスによる**5月30日公表**作物による栄養成分の吸収・利用効率を改善したりし、その結果、農作物の品質又は収量を向上させるものとして注目されている。また、持続的な生産活動に資するも

**農林水産省ガイドラインに準拠した
Eco-LAB自主規格を策定
(バイオスティミュラント資材が満たすべき基準)**

Eco-LAB自主規格 ～BS資材が満たすべき基準～

- バイオスティミュラントは従来資材と異なり、作用メカニズムから至適条件が特定されるため、Eco-LAB自主規格は、欧州政府の標準規格も反映し、資材要件と試験方法を定義しています。

バイオスティミュラント資材の適正利用に関する基準
(自主規格)

第1版

2025年4月15日
Eco-LAB



| | | |
|-----------------------|--|------------------|
| | 2. 資材が満たすべき基準..... | 5 |
| 2.1. 資材評価の要件..... | バイオスティミュラント資材が 再現性のある効果を示すために 満たすべき条件を定義 | 5 5 6 6 |
| 2.2. 試験方法および判定基準..... | 効果を証明するための 定量的な根拠データを取得する 試験方法を定義 | 6 6 7 9 |
| 2.3. 製品表示..... | | 10 |

※Eco-LAB自主規格は、農林水産省ガイドラインに準拠しています

Eco-LAB自主規格 | BS特徴（成分ではなく効果）

- バイオスティミュラント資材は、原料・成分から効果を判断できないため、製造加工後に「BS機能はあるか・その効果はどの程度か」などの評価が必要になります。



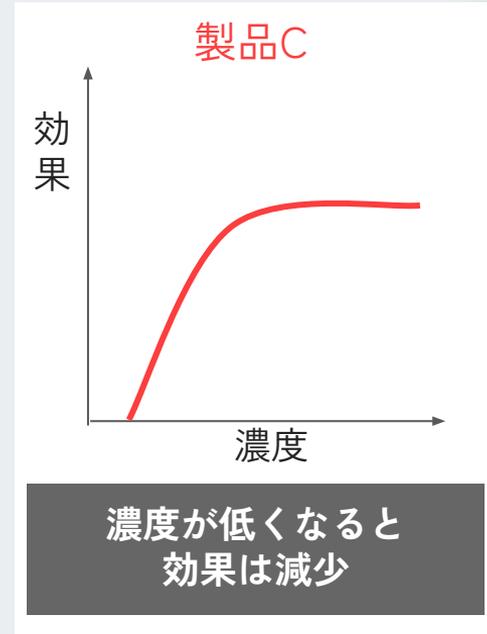
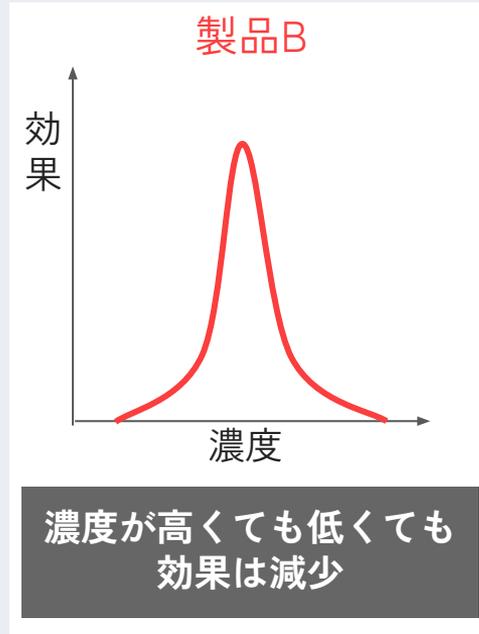
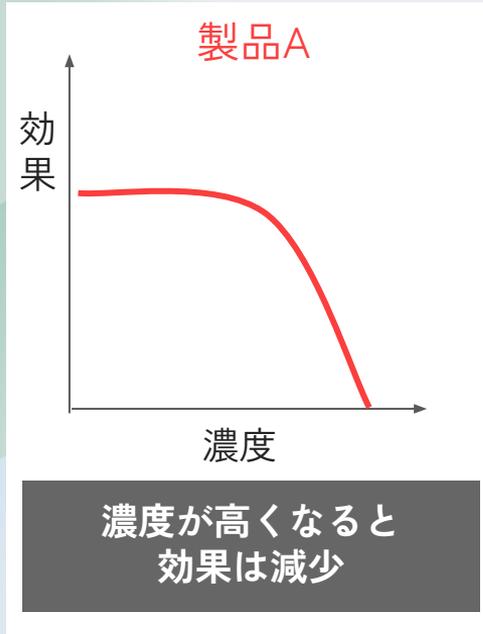
BS資材は、原料が同じでも加工方法により効果・機能・程度が異なる

欧米諸国では、「成分ではなく効果」の証明が必要とされている

バイオスティミュラントにならないものもある

Eco-LAB自主規格 | BS特徴 (濃度)

- バイオスティミュラント資材は、種類によって、使用する濃度条件が大きく変わるため、効果を示す至適濃度を正しく特定しておく必要があります。



資材の種類によって、効果を示す「濃度・使用量・時期・回数」が異なる

Eco-LAB自主規格 | 『性能』と『用法』の再現性

- バイオスティミュラントの特徴を踏まえ、効果を安定的に得るには、実験室試験（環境が制御された条件）と圃場試験（実際の栽培条件）の両方で効果が証明されている必要があります。

【Eco-LAB自主規格】 バイオスティミュラント効果の証明

① 実験室の試験

【BS性能の見極め】

BSの効果(作用メカニズム)を
正しく再現性もって証明する

- 試験設計は専門家の知識が必要
- 使用濃度・使用量を特定する

② 圃場の試験

【BS用法の見極め】

農作物・気候・土壌などの
地域適応の経済性を証明する

- 実圃場での安定的な効果を確認
- 使用時期・使用回数を決定する

Eco-LAB自主規格 | メリット

- Eco-LAB自主規格に定義された試験方法によって、作用メカニズムが解明されている資材は、効果を示す最適な使用条件が特定できるため、圃場での再現性は80%を超えています。

使用条件を特定し圃場で効果を示せる

- **最適な濃度**がわかる
- 使用する**生育フェーズ**がわかる
- 経費を抑えた**栽培設計**ができる
- 生育改善し**所得が向上**する



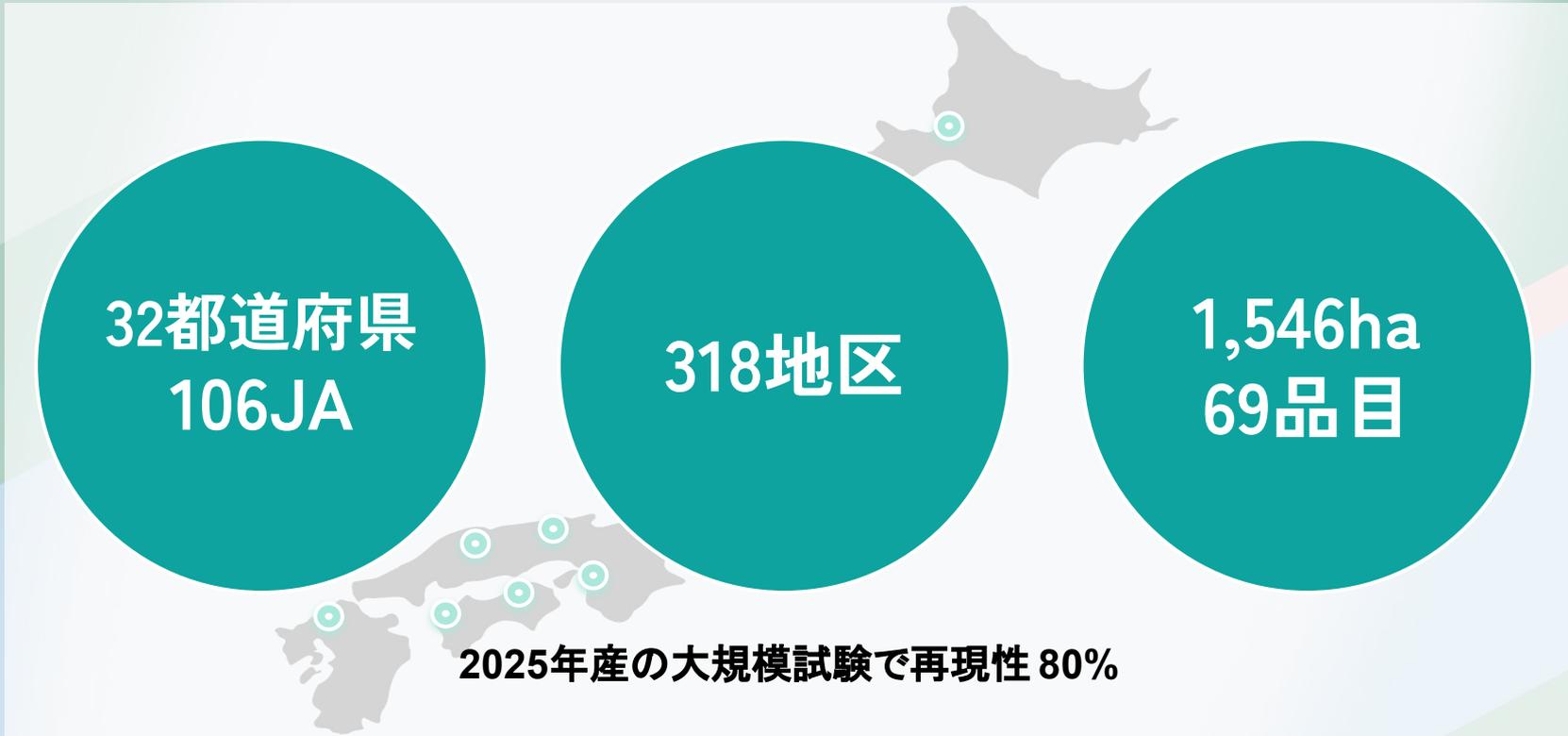
圃場での
再現性
80%

国内外の大規模試験

(Eco-LAB自主規格の証明)

国内活動 | 大規模試験 ～地域×栽培体系×作物品種のデータ基盤～

- ガイドラインおよびEco-LAB自主規格に準拠した資材を用いて、全国試験データを分析することで、作用メカニズムに基づく栽培体系を構築し、圃場における再現性80%を確認しました。



32都道府県
106JA

318地区

1,546ha
69品目

2025年産の大規模試験で再現性 80%

海外活動 | ベトナム ～気候や土壌ではなく『作用メカニズム』～

- 海外品種の水稻においても、日本で構築した栽培体系で、再現性を確認でき（40%収量増加）気候や土壌に関係なく、作用メカニズムに基づく使用条件と効果の安定性を証明しました。

農業財閥とともに、ベトナム政府が主導する100万haの低排出・高品質米の開発計画への貢献



効果を安定的に再現する『選び方・使い方』

- バイオスティミュラントは植物生理に作用する資材のため、標準的な栽培管理がなされている環境下（植物の生理が健全に機能）において、正しい条件で使用すれば、効果を示します。

Eco-LAB自主規格：圃場で効果を示すには...

→ 資材の選び方

ガイドライン定義の「植物体内の反応」が起きていること
 (作用メカニズム)

→ 資材の使い方

作用メカニズムの科学的根拠に基づく
 使用条件を確実に守ること (濃度・時期など)



日本農業新聞 2026年2月4日

普及活動

普及活動 | 『ガイドライン解説』

- 産地に正しい情報を届けるために、Eco-LABによるガイドライン解説記事を公開しています。
※ガイドライン解説の監修者：渡邊 雄一郎先生（東京大学 名誉教授）

バイオスティミュラントのガイドライン解説
監修：渡邊 雄一郎先生（東京大学 名誉教授）

- 1 バイオスティミュラントとは
- 2 正しい使用方法
- 3 正しい資材の選び方
- 5 バイオスティミュラントまとめ

業界注目の資材、バイオスティミュラント
農林水産省ガイドラインの解説と抑えるべきポイント

- ▼ バイオスティミュラントとは、植物を刺激し作用を促す資材の総称
- ▼ 特徴①：肥料・農薬とは異なり、植物を刺激し、植物が本来備えている機能を引き出す
- ▼ 特徴②：原料が同じでも効果が変わる。重要なのは「効果の証明」
- ▼ 特徴③：効果を出すための使用条件（使用する時期や温度）がある
- ▼ 効果が実証されている製品の選択が成功の秘訣

<https://eco-lab.gr.jp/biostimulant-guideline>



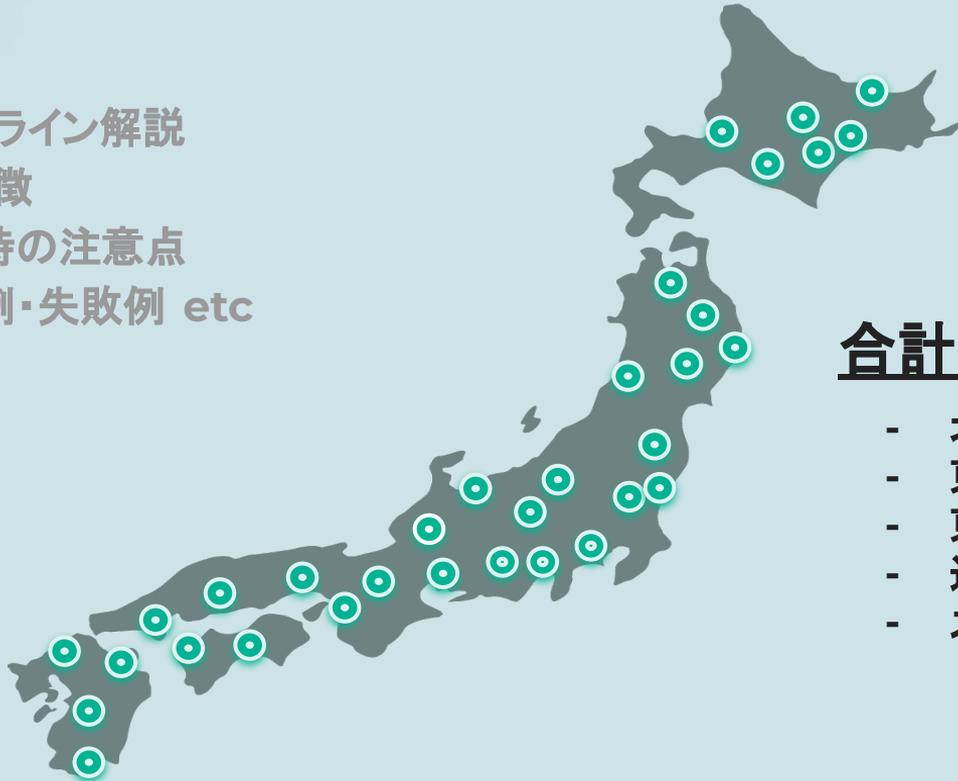
【徹底解説】バイオスティミュラントとは 肥料や農薬との違いや効果、農業現場の声まで

2025年8月22日

普及活動 | 『現地勉強会』

□ 2025年度は全国193地域で、JA様や生産者様向けの現地勉強会を実施しました。

- ◆ ガイドライン解説
- ◆ BS特徴
- ◆ 使用時の注意点
- ◆ 成功例・失敗例 etc



合計: 193地域

- 北海道
- 東北・北関東
- 東海
- 近畿・中国
- 九州・四国

普及活動 | 『Eco-LAB Voice』

□ Eco-LAB公式ページでは、国内外の動向調査レポート、JA様や生産者様の声など、農業現場をめぐるインタビューシリーズを公開しています。



03 バイオスティミュラント海外動向

各国で異なる制度整備

～ EU・インド・アメリカの“法体系の違い”を読み解く～

各国で異なる制度整備——EU・インド・アメリカの“法体系の違い”を読み解く

コラムシリーズ第一回では、バイオスティミュラントの概念が誕生した背景を前近代から現代まで振り返り、[コラムシリーズ第二回](#)では、バイオスティミュラントという用語の変遷をたどり、各国における定義の整備状況を整理しました。最終回となる今回は、EU・インド・アメリカの“法体系の違い”に焦点を当て、その制度設計の背景を読み解くと共に、今後の展望を考察します。

EU：定義で農業から除外。現在は評価基準の標準化フェーズ

EUでは、

- ・農業/農業規則 (EC 1107/2009)
- ・肥料/肥料製品規則 (EU 2019/1009)

という二つの規則があります。

EUでは、「植物にとって有害な生物を防除する」「植物の生命活動に影響を与える」ことを目的とした製品は、農業として扱われます。2012年に開始された肥料製品規則の再構築プロジェクトは7年をかけて進められ、2019年に新肥料製品規則 (Regulation (EU) 2019/1009) が制定され、2022年に施行されました。その定義は次のように定められました。

植物バイオスティミュラントとは、製品の栄養含有物とは無関係に、植物の栄養プロセスを刺激し、植物または植物根圏の以下の特性のうち1つ以上を改善することを唯一の目的とする製品を意味する：

(a) 栄養素利用効率

03 バイオスティミュラント海外動向

各国で異なる制度整備

～ EU・インド・アメリカの“法体系の違い”を読み解く～

各国で異なる制度整備——EU・インド・アメリカの“法体系の違い”を読み解く

02 バイオスティミュラント海外動向

バイオスティミュラントとは何か

～ バイオスティミュラントの原点をたどる～

BSとは何か——BSの原点を辿る

2025/12/16

01 バイオスティミュラント海外動向

バイオスティミュラントの源泉をたどる

～ 植物の能力をめぐる科学の歩み～

BSの源泉をたどる——植物の能力をめぐる科学の歩み

2025/12/16

農林水産省インタビュー

「バイオスティミュラント」ガイドラインで変わる農業の未来

農林水産省/「バイオスティミュラント」ガイドラインで変わる農業の未来

2025/12/16

生産者・JAインタビュー

JA金丸いわてバイオスティミュラント活用による夏秋野菜の安定生産を目指して

夏野菜の安定生産を目指して。40%増収を実現

2025/12/15

生産者・JAインタビュー

JAさらべつ減肥と高温対策に向けたバイオスティミュラント活用の取り組み

【約10%増収】BS活用

2025/12/15

<https://eco-lab.gr.jp/eco-lab-voice>





※本資料の無断転載・転用を禁じます。